

製品名: SPEG ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18180**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	359kDa

抗原情報

遺伝子名	SPEG
別名	APEG1 KIAA1297
遺伝子 ID	10290.0
SwissProt ID	Q15772
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

この遺伝子は、ミオシン軽鎖キナーゼファミリーのメンバーと類似したタンパク質をコードしています。このタンパク質ファミリーは、心筋細胞の細胞骨格の発達に必要です。デスミン遺伝子とともに、この遺伝子の発現はデスミン遺伝子座位制御領域によって制

御されている可能性があります。この遺伝子の変異は、中心核ミオパチー 5 に関連しています。[RefSeq 提供、2016 年 6 月],触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。機能: アイソフォーム 3 は、動脈平滑筋細胞の成長と分化を制御する役割を果たしている可能性があります。誘導: アイソフォーム 3 は、ASMC 細胞が静止期から増殖期へと変化する血管損傷に反応して急速にダウンレギュレーションされます。その他: 発現は遺伝子座位制御領域 (LCR) によって厳密に制御されています。PTM: 自己リン酸化される可能性があります。DNA 損傷時にリン酸化されるが、原因はおそらく ATM または ATR である。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 2つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。類似性: 2つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 9つの Ig 様 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。サブユニット: アイソフォーム 3 は、モノマーまたはホモダイマーとして存在する。組織特異性: アイソフォーム 1 は、横紋筋で優先的に発現する。アイソフォーム 3 などの非キナーゼ型は、主に大動脈で発現する。アイソフォーム 3 は、正常血管壁の高度に分化した ASMC でのみ発現し、生体内では脱分化した ASMC ではダウンレギュレーションされるようである。血管損傷に反応して、ASMC は脱分化し、静止期および収縮期の表現型から増殖期および合成期の表現型へと変化します。この血管平滑筋細胞の増殖は、動脈硬化の最も顕著な特徴の一つです。

研究分野

心血管系; 血管系; 血管マーカー; 動脈

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。